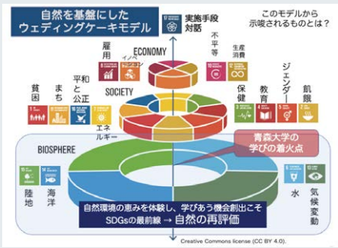
地域ESD
推進拠点レポート

青森

地域の自然の再評価に向けた 地域の中小規模の 高等教育機関の可能性



青森大学 AOMORI UNIVERSITY

青森大学

ネイチャーポジティブ時代における 地域の自然の再評価に向けた 高等教育機関の可能性と課題

青森大学のような小規模私立大学は全国に460あり、全体の77%を占めています。本学では附属総合研究所SDGs研究センターを軸に、基本方針「地域の自然の再評価」のもと、ストックホルム大学のウェディングケーキモデルの考え方を踏まえて、普段見落としがちな身のまわりの自然環境とのかかわりこそ、地域の社会的経済的課題の改善につながる「学びの着火点」と位置づけ、地域の関係者と学びの機会創出に奔走しています。同モデルはゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」を軸に、経済、社会、生物圏の 3 階層による立体的な構成になっており、小規模大学が機動力を活かし、人や組織を巻き込み社会変革を担う可能性を示しています。

■組織・団体が取り組む課題（テーマ）［SDGs］

写真について
上：新湯1 作業様子
下左：2024年度浴槽修繕
下中：新湯2 2023年度日本技術士会青森県支部 総会での発表
下右：ウェディングケーキモデルと学びの着火点

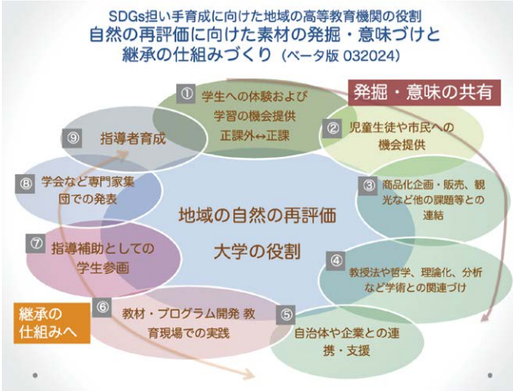
〒030-0943 青森県青森市幸畑2-3-1
電話　017-738-2001（代表）
E-mail　jimukyoku@aomori-u.ac.jp
URL　https://www.aomori-u.ac.jp/

活動紹介

新湯再生プロジェクト

2024年度入浴

新湯3 Starlink
接続実証の様子



自然の再評価に向けた素材の発掘・意味づけと継承の仕組みづくり

プロジェクト概要

新湯とは、青森大学の経営母体、学校法人青森山田学園が昭和47年から十和田八幡平国立公園の第2種特別区域を借用し、教育目的に設置したもので、未電化で建屋が4棟、63°Cの源泉が湧出しています。しかしながら、この10年ほど遊休資産化していたため、2019年から総合経営学部や社会学部のゼミ活動としてこのプロジェクトに取り組んできました。その立地条件と周囲の自然環境の豊かさから、野外での生活技術やコミュニケーション能力、災害時の対処能力の向上だけでなく、地球的視野に立った責任感や未来に向けたイメージと価値観を育むための施設として、チームワークやリスクマネジメント、非常時に重要となる労働の仕方や段取り、大工仕事など、防災や復興など有事でも役立つ能力育成を目指してきました。2024年度からはソフトウェア情報学部のゼミが参画し、Space X社のStarlinkを活用したシステムアーキテクチャの構築にも着手しています。

ESD実践のポイント

このプロジェクトは、国立公園内に野天風呂を有するという稀有な特徴のみならず、現地の環境容量という制約条件のもと、複数学部の参画による教育コンテンツ開発の可能性と、日本技術士会東北本部青森県支部やKDDI財団など外部機関とのパートナーシップによって成り立っている点、天候や季節、施設の改修状況に応じた順応的プログラムを実施していることがポイントです。例えば、冒頭写真の水道復旧は、2021年度から約3年かけて学生らが日本技術士会青森県支部の支援・技術指導を受けながら約800mの水道管を八甲田山中の藪の中に敷き直し、2024年度は建屋や浴槽など施設の修繕に取り組みました。2025年度の目標は浴槽と宿泊棟の修繕を行い、現地で宿泊研修を実施することです。この宿泊研修では、環境容量を踏まえた体験型暮らしの能力育成をベースに、教育ツーリズムやデジタルリテラシー教育、通信インフラ整備など、各専門分野にかかる体験型学習プログラムの構築と人づくりの体系化を目指しています。

担当者からのメッセージ

ネイチャーポジティブの時代、SDGsのウェディングケーキモデルの実践と応用には、本プロジェクトのみならず、既存の考え方や進め方を抜本的に見直すことが不可欠で、信念や好奇心、怯まない姿勢、それに賛同する仲間づくり・応援団の形成が大切だと日々痛感しています。また、自然の再評価に向けた素材の発掘・意味づけと継承の仕組みづくり人づくりの体系化を目指しています。

SDGs研究センター長
藤　公晴さん

副センター長
佐々木 豊志さん